

岩手県の商業

－肴町商店街の実態－

二回生 信木孟

I. はじめに

近年、商店街はモータリゼーション(車社会)の進展や郊外型大型店などの影響により、全国的に衰退傾向となっている。それらの状況を踏まえ、商店街は現在では地域社会の中心にあって単なる「買い物の場」を超えた「暮らしの場、憩いの場、コミュニティの場」として重要な役割を担うようになってきている。本稿では、岩手県の商業を盛岡市の肴町商店街を中心としてそれらの変化を示し、考察をしていく。

II. 岩手県の商業の実態

1) 岩手県全体の小売業

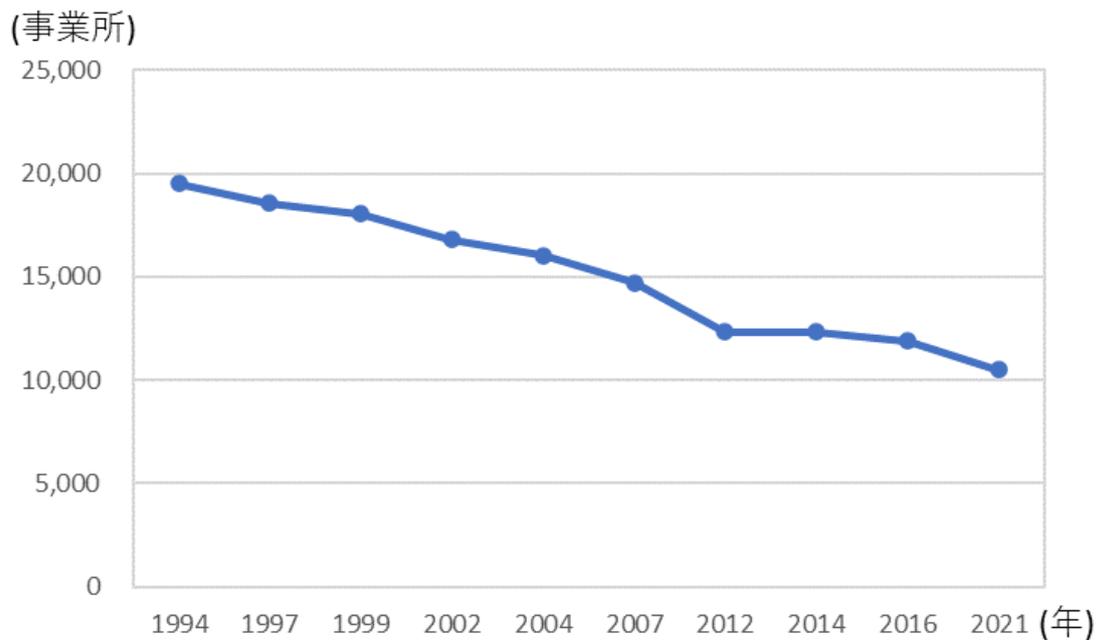


図1 岩手県の小売業事業所数推移

(政府統計の総合窓口 e-stat 経済センサス-活動調査より作成)

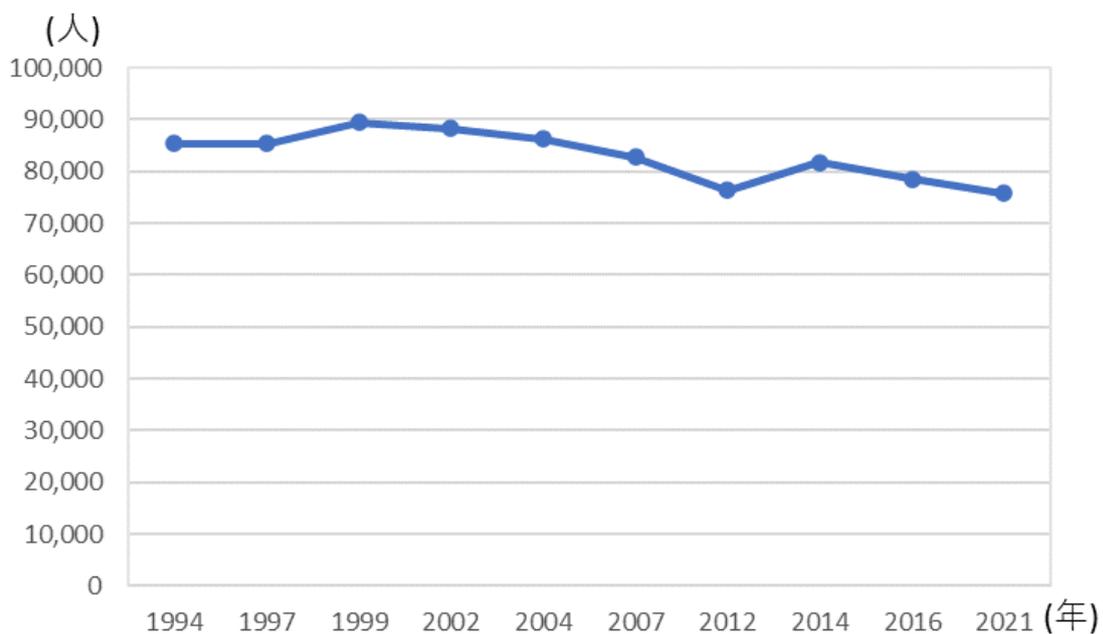


図2 岩手県の小売業従業者数推移
(政府統計の総合窓口 e-stat 経済センサス-活動調査より作成)

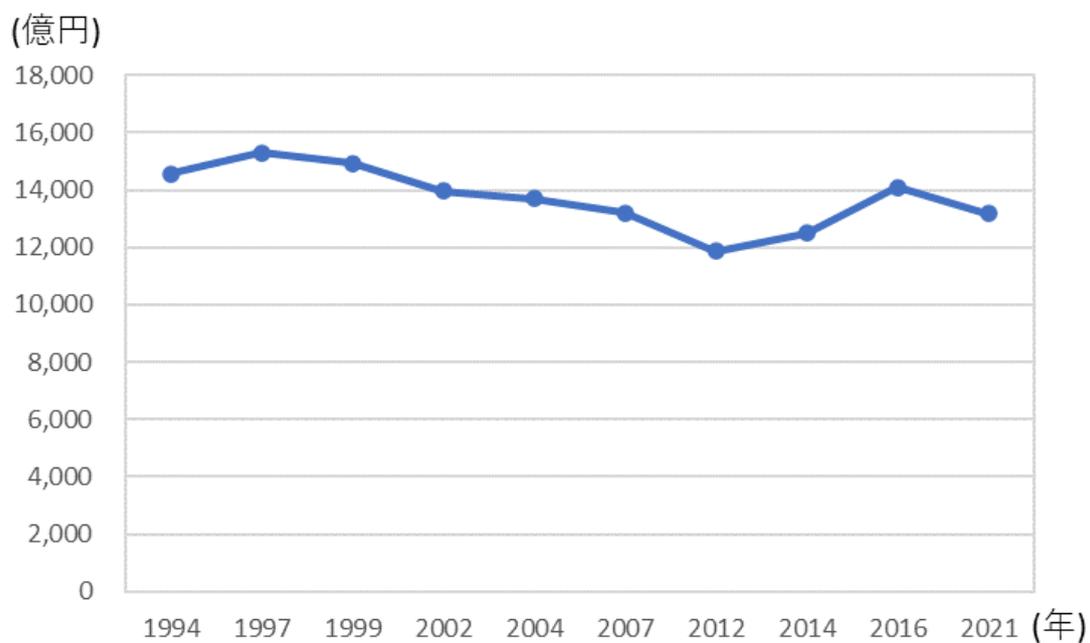


図3 岩手県の小売業年間商品販売額推移
(政府統計の総合窓口 e-stat 経済センサス-活動調査より作成)

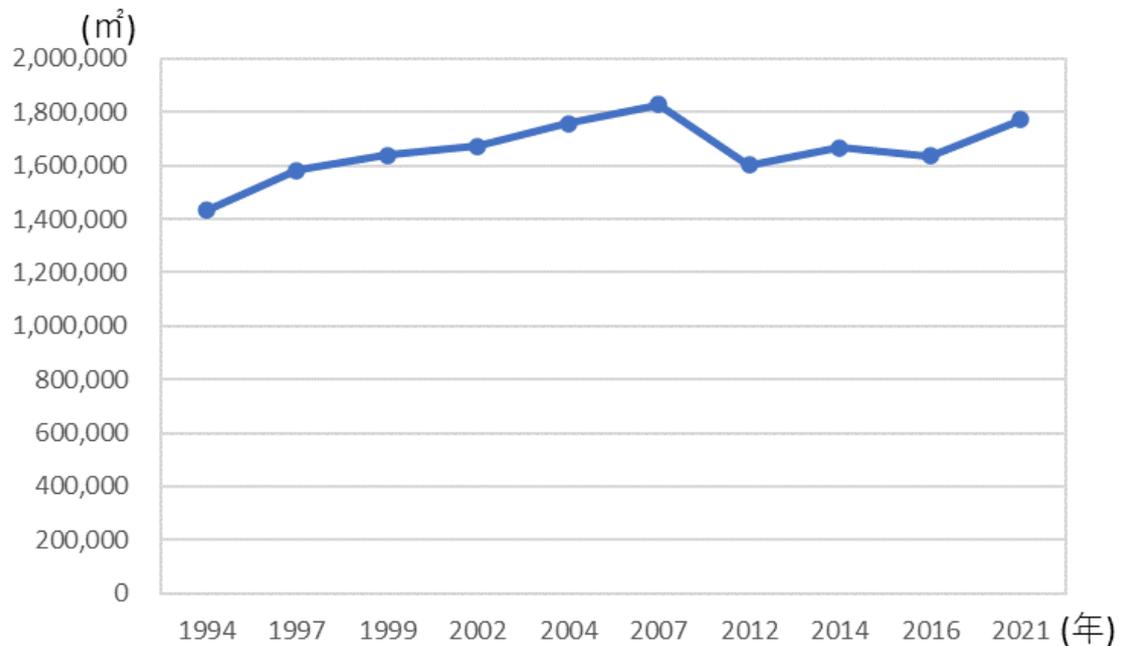


図4 岩手県の小売業売場面積推移
(政府統計の総合窓口 e-stat 経済センサス-活動調査より作成)

図1は岩手県内の小売業をしている事業所数の推移を示したものである。2012年から2014年は横ばいになってはいるが1994年から2021年の全体を通して減少となっている。1994年は19,533事業所に対し、2021年は10,512事業所となっていることから約46%もの減少率となっている。また、これらの期間、増加に転じたことはない。

図2は岩手県内の小売業への従業者の推移を示したものである。従業者数が最も多いのは1999年の89,447人であるが、その後は2012年にかけて減少しており、約14%の減少率となっている。その後の2014年は増加に転じたが、2016年からは再び減少に転じている。

図3は岩手県内の小売業の年間商品販売額の推移を示したものである。1997年から2012年にかけては減少しており、約22%の減少率となっている。一方、2012年から2016年にかけては増加に転じており、約18%の増加となっている。しかし、2021年は再び減少に転じてしまっている。

図4は岩手県内の小売業の売場面積の推移を示したものである。1994年から2007年まで増加しており、約27%の増加率となっている。その後の2012年は減少しているが、2021年にかけて増加傾向ではある。図1の事業所数とこの売場面積との関係を考えてみると1事業所あたりの売場面積は増えていることが分かるだろう。

2) 岩手県の市町村別の小売業の実態

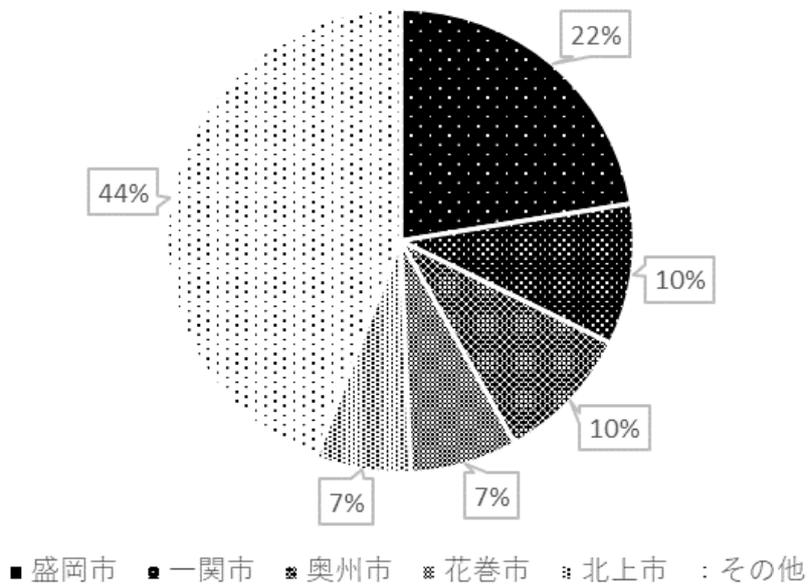


図5 岩手県小売業事業所数上位5市町村とその他
(政府統計の総合窓口 e-stat 経済センサス-活動調査 2021年より作成)

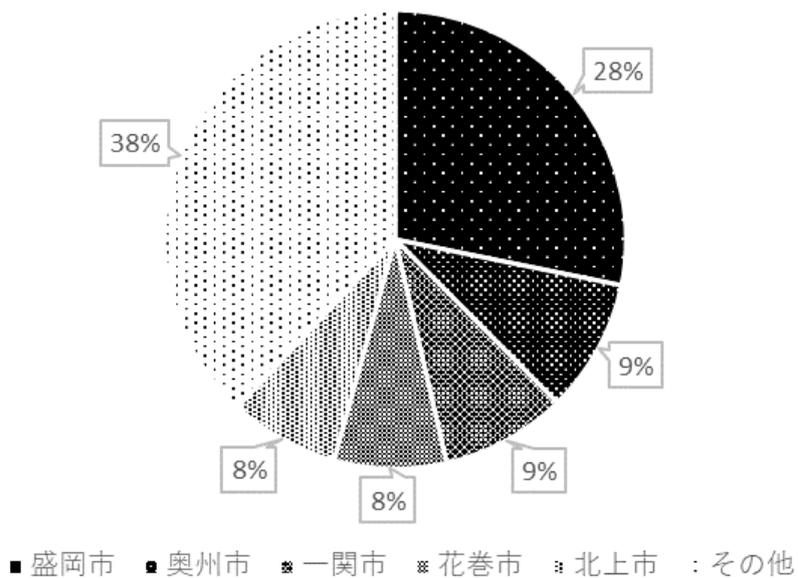
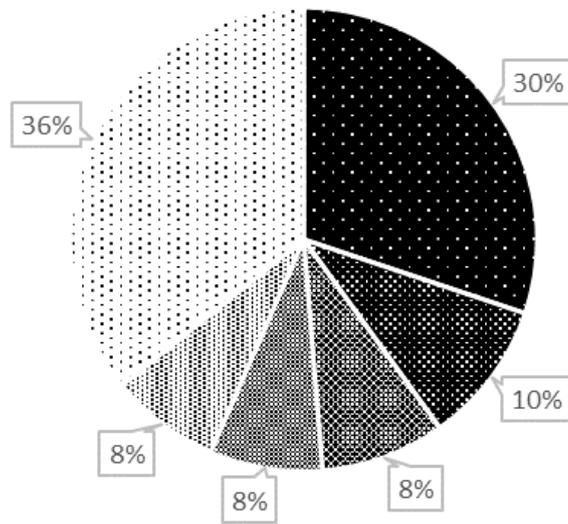
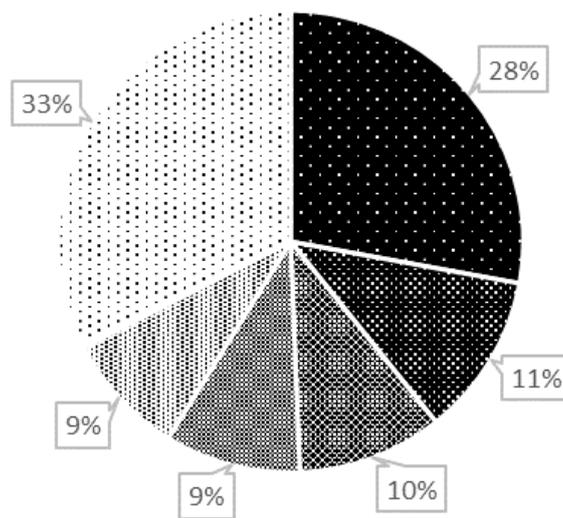


図6 岩手県小売業従業者数上位5市町村とその他
(政府統計の総合窓口 e-stat 経済センサス-活動調査 2021年より作成)



■ 盛岡市 ■ 奥州市 ■ 北上市 ■ 花巻市 ■ 一関市 : その他

図7 岩手県小売業年間商品販売額上位5市町村とその他
(政府統計の総合窓口 e-stat 経済センサス-活動調査 2021年より作成)



■ 盛岡市 ■ 奥州市 ■ 北上市 ■ 一関市 ■ 花巻市 : その他

図8 岩手県小売業売場面積上位5市町村とその他
(政府統計の総合窓口 e-stat 経済センサス-活動調査 2021年より作成)

図5から図8にかけて、上位5市でそれぞれの項目において約60%から約70%近くを占めていること分かる。特に岩手県の県庁所在地である盛岡市はすべての項目で1位となっており、また、盛岡市だけでも岩手県の約20%から約30%を占めていることが分かる。このことから盛岡市が名実ともに岩手県の商業の中心となっていることは明らかであろう。

III. 肴町商店街の実態

1) 肴町商店街の概要



図9 肴町商店街の位置
(地理院地図より作成)

図9をみると肴町商店街は盛岡駅からは少し距離があることが分かる。しかし、商店街の北東には盛岡バスセンターがあり、駅からの利便性は良い。また、商店街周辺には岩手県庁や盛岡市役所、岩手県警察本部などがあり、行政の中心地である官公庁からは近いことが分かる。

表1 肴町商店街周辺の歴史

1960年	盛岡バスセンター開業
1973年	「肴町300年祭」実施
1974年	肴町商店街振興組合設立
1975年	肴町商店街振興組合青年部(4S会)設立 七夕まつり実行委員会発足
1980年	川徳菜園に移転(10月)
1981年	中三盛岡店オープン(5月)
1983年	カナンJOYスタンプ事業開始 全蓋アーケード完成
1988年	ワゴンセール開始
1989年	情報誌「ザ・ホットライン」創刊 「ちびっこ王国」開始
1992年	協同組合ジョイ設立 カナンJOYスタンプ、カード化
2002年	アーケード・カラー舗道リニューアル
2011年	中三破綻(3月末)
2012年	Nanakオープン(10月)
2015年	「MORIO-J」運用開始(3月)
2016年	盛岡バスセンター閉鎖(9月30日)
2017年	SIDE-B(バスセンター跡地)閉所(9月)
2019年	Nanak閉店(6月3日)
2022年	盛岡バスセンター開業(10月4日)
2024年	monaka開業予定(4月)

(肴町商店街振興組合提供資料より作成)

肴町は江戸時代から盛岡市の商業の中心地として栄えてきた歴史がある。盛岡市には多くの商店街があるが、市内唯一の「全蓋アーケード」となっている。消費者が日常的に使用する商品である最寄り品や複数の店舗などで比較・検討などをしてから購入する買回り品の両方の店舗が多く、地域の台所としての役割を担っている。表1は盛岡バスセンターが開業してからの肴町商店街とその周辺の歴史を示している。肴町商店街振興組合は1974年に設立された。その後、1981年には商店街の核店舗となる中三盛岡店がオープンし、2012年にはNanakとなり、2024年には新たにmonakaが開業することとなっている。また、2022年には盛岡バスセンターがリニューアルし、集客力が市内全域に及んでいる。

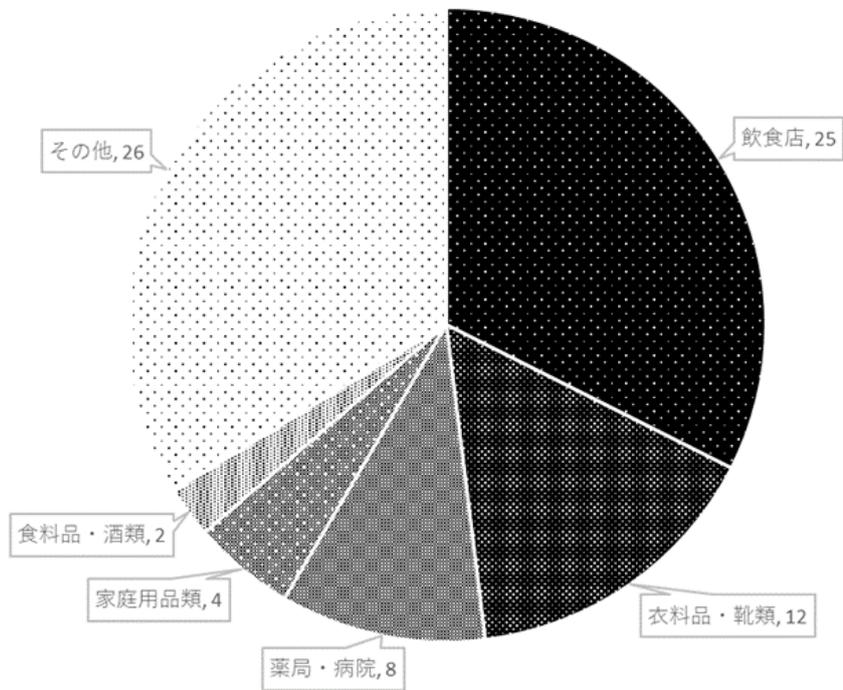


図 10 着町商店街の主な職種
(ホットライン着町生活便利帳より作成)

図 10 から着町商店街では飲食店が多いことが分かる。次いで、衣料品・靴類などの買回り品となっている。その他には不動産や美容院などが含まれている。

2) 肴町商店街の土地利用の変化

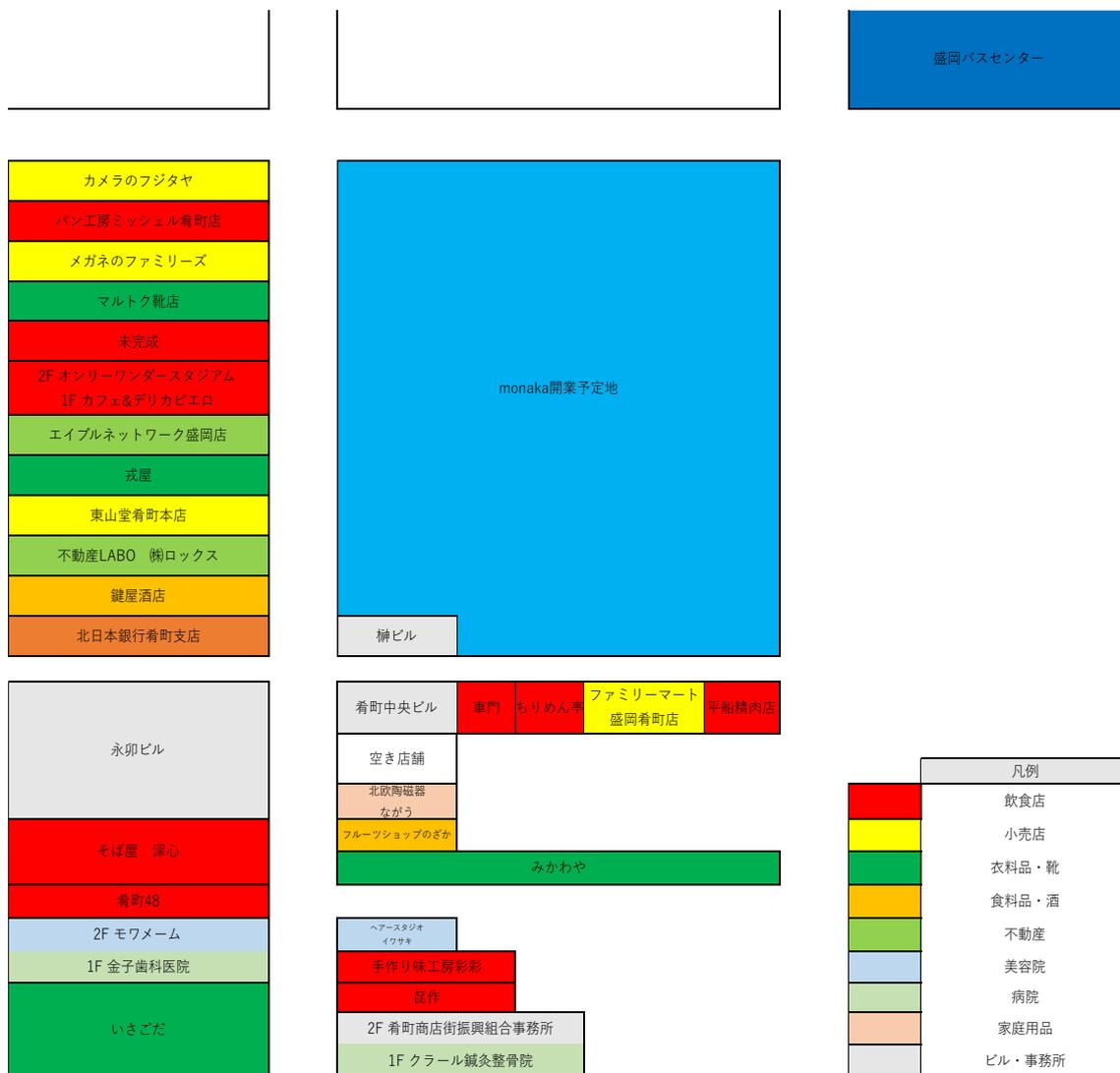


図 11-1 2022 年の肴町商店街北部の店舗図
(ゼンリン住宅地図 2022 より作成)

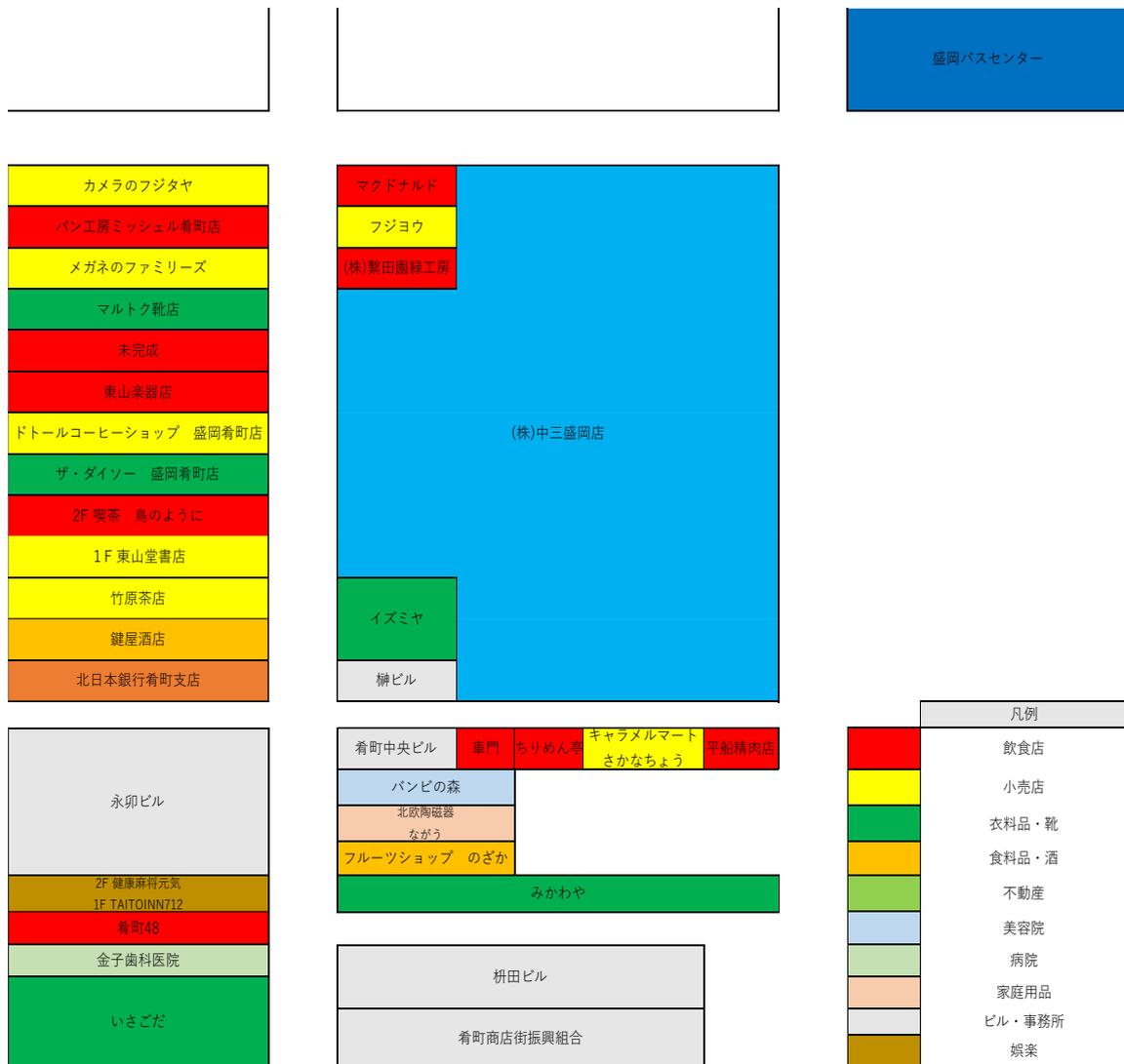


図 11-2 2000 年の肴町商店街北部の店舗図
(ゼンリン住宅地図 2000 年より作成)

図 11-1 と図 11-2 は住宅地図を基に作成した、肴町商店街の業種別の店舗構成を示す店舗図である。

まず、これらを比較すると 2022 年と 2000 年では店舗の変化には大きな変化はあまりないといえるだろう。2000 年にもある店舗が 2022 年でも多く見られることが分かる。

しかし、すべての店舗がそのようであるとは言えない。まず、異なるのはこの商店街の核店舗となる部分周辺の変化である。2000 年では(株)中三盛岡店となっているが 2022 年では monaka の開業予定地となっている。その北東には盛岡バスセンターがあるが、こちらも 2022 年にリニューアルされ、2000 年とは異なり新しくなっている。このように核店舗の周辺部分は再開発が現在進行形であり、今後の商店街の活性化が期待されている。

また、興味深い点として、2022 年時点では商店街全体で空き店舗は 3 店舗で、シャッターが下りてしまうことはあまりないと伺った。これは全国的に商店街の衰退が問題となっている中では珍しいことであるだろう。

IV. おわりに

本稿では、岩手県の商業及び肴町商店街の実態について分析した。岩手県の商業では小売業が減少傾向であることが分かった。その中でも売り場面積だけは増加傾向であり、1 事業所あたりの売り場面積は増加していることが分かる。市町村別の小売業の実態としては、年間商品販売額がトップであるなどのことから、県庁所在地でもある盛岡市が名実ともに岩手県の商業の中心地であることが良く分かる。その盛岡市にある肴町商店街は江戸時代からある歴史ある商店街である。空き店舗は少ないという珍しい商店街でもあり、現在は各店舗付近を中心とした再開発が行われている。また、盛岡市はニューヨーク・タイムズ紙における「2023 年に行くべき 52 カ所」の 2 番目選ばれたこともあり、今後の肴町商店街の活性化にさらに注目が集まるだろう。

—追記—

本稿を製作するにあたり、盛岡市肴町商店街振興組合 大沢様、肴町商店街に携わる皆様にはお忙しい中大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

—参考文献—

盛岡市 (2018) 『盛岡市中心市街地活性化基本計画』

ゼンリン 『ゼンリン住宅地図盛岡南部』 (2022/2000)

盛岡市肴町商店街振興組合ホームページ <https://www.sakanacho.com/>

